

No.16 激シブ!ブルース・フレーズ

使用しているテクニックは……

- 後ろの拍によりかかる
- リップ・ベンド+グリッサンド

楽曲のキー **E**

テンポ **J=80**

★超絶指数

★★★★☆

模範演奏 **Track 31**
カラオケ **Track 32**

12小節単位のフレーズに 起承転結を感じること!

ブルース定番の12小節フレーズ。ブルースを起承転結で表すと、最初の4小節が“起”、次の4小節が“承”、次の2小節で“転”、最後の2小節が“結”。“起承転結”ははっきりとしているが、基本的にブルースは12小節なので、慣れないうちはやりづらいかもしれない。

音の終わりにビブラートをつけたり、ちょっとしたリップ・ベンドやグリッサンドをすると、ブルースの雰囲気を出しやすいだろう。

(in E^b)

《 超 絶 フ レ ー ズ の テ ク ニ ッ ク 解 説 》

- 超絶POINT.1 3連符のノリを意識して、泥臭さを演出しよう!
- 超絶POINT.2 テクニックよりもブルースのスピリットを!

このテンポのブルースでは、リズムの取り方が何種類もある。今回のフレーズだと、オモテを数えながら3連符でノっていくパターンと、倍のテンポでの4ビートでノるパターンが考えられる。なるべく後者のノリ方に逃げずに、3連符でベタ〜と泥臭いイメージで吹く方が、“激シブ”の雰囲気を表現することができるだろう。

ブルースは、元々黒人が衝動に駆られて歌った音楽。表面的なことよ

りもスピリットが大事だから、たくさんブルースを聴いて自分がどう歌いたいかというのを考えるべきだ。5音のブルーノート・ペントニック・スケールを使えばいいだけだから、テクニック云々という問題じゃない。ブルースの“ブルー”をどう表現するかはその人のソウル次第!

筆者がこういうブルースを演奏するなら、いかに自分がシャウトできるかを念頭において、小手先のことは一切考えないで吹く。

ブルースを学ぶなら、コールマン・ホーキンスやベン・ウェブスターのアルバムを聴くといいだろう。



「コールマン・ホーキンスとベン・ウェブスター」

超絶への道 ~このフレーズを吹けるようになるにはコイツを練習するべし~

(in E^b) E7

左ページのフレーズに登場する、2度と6度を抜いたブルーノート・ペントニック・フレーズ。まずはリズムが走らないよ

うに吹いてみよう。慣れてきたら、これ以上ありえないくらいに“後ろの拍によりかかって”吹くこと。

(in E^b) E7

同様のコードを使った、16分音符でのブルーノート・ペントニック・フレーズ。ブルースのフィールを感じながら吹いて

みよう。